

★学校教育目標 ○かしい子 ○やさしい子 ○元気な子		★重点計画の概要 令和6年度は、第4次日野市学校教育基本構想を受け、具体的には①児童の心を耕す道徳教育と道徳科の学習の充実 ②異学年や異学級の交流活動を充実させ、自他のよさに気付く、自己肯定感を育む活動の充実 ③児童が主体的に考え活動する機会や場を工夫し、新たなことにチャレンジできるようにすることに取り組む。「安心できる学校プロジェクトについて、学校が児童にとって安心な場であり、個々のチャレンジを支え、応援する場であることを目指す。	
★目指す学校像（ビジョン） 【目指す児童・生徒像】 【目指す学校像】 【目指す教師像】		人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を基盤として、学ぶ喜びと主体性をもち、自己の学力、人間性、体力を高めようとする児童 児童と教職員が学び合って共に育ち、活躍でき、保護者・地域と協働していく学校 One Teamとして協働・挑戦し、互いに学び合い、成長を実感し合える教師集団	

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標		評価基準		学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策
				評価点	取組指標	評価点	成果指標		
みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる	児童自ら課題を見付け、協働して学びを深め、課題を解決していく「一人一人を大切に」した多様な学びの実践	他者と対話したり協働したりする道徳科の授業を充実する。	毎月校内研究日を設定し、各学年が研究授業を行うことを通して、「考え、議論する道徳」の授業に取り組む。 また、研究授業後の協議会を充実させ、授業改善に取り組む。	4	具体的方策に教員の100%が取り組んだ。	4	実施状況について、90%の保護者・児童から肯定的な評価を得た。	<ul style="list-style-type: none"> あいさつやお礼の言葉等、大人に対してきちんとできるのが素晴らしい。 成果指標の実施状況とは、議論する道徳が実施されたということか。 「対話・協働」の実施については内容を検討し、実施に大変な労力が払われていると察する。教員の評価点が「2」というのは取組指標が厳しい印象を受ける。保護者・児童からは90%の肯定的な評価を受け十分に目標に達している。 当事者として考えられる人間になれるよう、対話や協働の大事さを学ぶ取り組みは大人へ向かって大事な教育だと思う。 道徳は意識をもち続けることが重要。そのため教員の自己評価が低く保護者・児童の点が高いのは理想的。 一方的にこうあるべき考えを教えるのではなく、多様な意見を尊重する授業だとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究を通して教職員の道徳授業に対する意識や学び合いの深まりが見られた。また、児童への発問や「対話」の場・方法を工夫した授業展開にも取り組んできたことが、児童の心の耕しにつながってきている。今後も「対話」したり「協働」したりする道徳科の学習になるよう授業改善に取り組む。
				2	3 具体的方策に教員の90%が取り組んだ。	2	実施状況について、80%の保護者・児童から肯定的な評価を得た。		
みんなが多様な学びを通して、自ら歩む道をつくる	児童自ら課題を見付け、協働して学びを深め、課題を解決していく「一人一人を大切に」した多様な学びの実践	個に応じた指導や多様な学び方を設定した授業を充実する。	学力調査等のデータから、個々の児童の課題を明らかにするとともに、学習形態の工夫やタブレットPC等の活用、児童が考えたことをアウトプットし合う主体的な学習の充実に取り組む	4	具体的方策に教員の100%が取り組んだ。	3	実施状況について、80%の保護者・児童から肯定的な評価を得た。	<ul style="list-style-type: none"> 学校公開では、各教科に応じたタブレットを使っており効率よく授業が進められていた。ICTを使った学習は今後も大事なことなのでさらに充実させる。 記述式の問題が苦手なのは読解力も関係しているのでは。子供達にはたくさん本を読んでほしい。 学力向上のために主体的な学習の充実を図ったことはよい。 ICT等を活用し個々に応じた新しい形態での学習は、教員の自己評価は低く発達途上にある。より良い形を目指して進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTの活用については今後も、「どのように使うか」を重点において指導していく。また、個に応じたアウトプットの方法も合わせて積極的に指導していく。読書については学校司書の配置や読書旬間の設定など本に興味をもたせる取り組みを充実させてきており、本が好きな児童は多い。今後は様々な読書活動から得られた力を、文章としてアウトプットできるように取り組みを進めていく。
				1	2 具体的方策に教員の85%が取り組んだ。	1	実施状況について、75%の保護者・児童から肯定的な評価を得た。		
みんなが多様な学びを通して、自ら歩む道をつくる	自他のよさに気付く、それを生かす教育の実践	全ての児童が安心して生活できる環境を整備し、配慮を要する児童一人一人に応じた支援を充実する。	ステップ教室やふらっとルームと在籍学級との連携を図り、組織的な支援の充実に取り組む。また、さくら組と通常学級との継続した連携やさくら組における個に応じた指導の充実に取り組む。	4	具体的方策に教員の100%が取り組んだ。	3	実施状況について、80%の保護者・児童から肯定的な評価を得た。	<ul style="list-style-type: none"> ステップ、さくら組、ふらっとルームの取り組みや児童へのきめ細かい指導がなされており、特別な配慮を要する児童に対する支援を充実させていることはよい。 さくら組と通常学級の連携も、順調に進められていると評価できる。先生方、子供たちがそれぞれの場の目的を理解し認め合える環境が大切。安心して生活出来る環境作りを継続してほしい。 ふらっとルームが定着しつつあり、利用する子供達も自分の居場所になっている。次年度以降も縮小せずに継続して欲しい。 多くの大人の目で子供をも見ていくことは素晴らしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別な配慮を要する児童や不登校傾向にある児童は社会全体で増加傾向にあり、本校にも多く在籍している。今後も日野スタンダードに基づき、校内支援委員会を核とした組織的な支援体制の充実に取り組んでいく。さくら組やステップ教室、ふらっとルームなどと連携を図り、児童が取り残されることがない学びの環境を目指す。また、教職員間で配慮が要する児童についての情報共有を図り、組織的に対応できる学校にしていく。
				3	3 具体的方策に教員の90%が取り組んだ。	1	実施状況について、75%の保護者・児童から肯定的な評価を得た。		
みんなが多様な学びを通して、自ら歩む道をつくる	児童が自らの学びを振り返り、「できた」、「わかった」、「もっとやりたい」を感じる授業づくりをする。	日野スタンダードを基盤に、ユニバーサルデザインの考え方による授業を実践する。また、校内資源の活用やエール等の外部機関との連携を図り、特別支援教育の充実に取り組む。	日野スタンダードを基盤に、ユニバーサルデザインの考え方による授業を実践する。また、校内資源の活用やエール等の外部機関との連携を図り、特別支援教育の充実に取り組む。	4	具体的方策に教員の100%が取り組んだ。	3	実施状況について、80%の保護者・児童から肯定的な評価を得た。	<ul style="list-style-type: none"> 保護者のニーズがある場合、専門的なアドバイスができるSC等の配置や活用は今以上に配慮が必要。 「日野市スタンダード」をベースにユニバーサルデザインの考え方による授業を推進することは、誰一人取り残すことのない個別最適な学びにつながり、とてもよい。 具体的方策が非常に分かりづらく、評価も難しかった。具体的方策を見直しが必要。 地域、近隣施設等と継続して連携を図ってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 日野スタンダード及びユニバーサルデザインの考え方にに基づき、ICTを効率的に活用しながら、個別最適化された学びの実践を継続的にしていく。特別な配慮を要する児童については、必要に応じてスクールカウンセラーや日野市教発運営支援センター（エール）等と連携しながら、児童が安心して学ぶことができる環境を整えていく。
				3	2 具体的方策に教員の85%が取り組んだ。	1	実施状況について、75%の保護者・児童から肯定的な評価を得た。		
社会と未来に関わり、みんなが主体的に取り組む教育活動の実践	つながりを大切に、児童が主体的に取り組む教育活動の実践	人とつながるよさを実感し、自己肯定感を育む活動を充実する。	たてわり班活動や異年齢の交流活動を定期的に行い、児童が異年齢で遊んだり活動したりするよさに気付いたり、自ら活動を充実させたりできるよう指導・支援に取り組む。	4	具体的方策に教員の100%が取り組んだ。	4	実施状況について、90%の保護者・児童から肯定的な評価を得た。	<ul style="list-style-type: none"> 異年齢との交流は、思いやり、協調性を育む上で大切。違う学年と学ぶことを、児童も楽しんでいる。自己肯定感を育む活動を継続すべき。 人とのつながりについて、100%の教員の方々が実践し、また、90%の保護者・児童から肯定的な評価を受けていることに社会教育の人間としても喜びを感じる。今後も活動の充実を期待する。 一小的良さは、縦・横、地域のつながりの良さで、評価にも表れている。 放課後の遊びで、低学年の子への配慮がとても微笑ましい場面をよく見る。 	<ul style="list-style-type: none"> たてわり班活動を積極的に行うことは、人間関係を広めたり深めたりする中で、高学年のリーダーシップや下学年のフォローシップを育み、更に自己有用感を高めていける結果となった。また、異学年の交流行事や交流授業は、児童が相手意識を持つきっかけとなっている。異年齢では、より丁寧なコミュニケーションが必要となり、自己理解にもつながる。来年度も異学年の交流を増やしていく。
				4	3 具体的方策に教員の90%が取り組んだ。	1	実施状況について、75%の保護者・児童から肯定的な評価を得た。		
社会と未来に関わり、みんなが主体的に取り組む教育活動の実践	地域の教育的資源を生かした教育活動や近隣の学校との連携活動を充実する。	地域の施設や人材を活用した学習を全学年で行い、地域への愛着を育む活動に取り組む。また、近隣の幼稚園や保育園、中学校と連携し、学びの連続性や円滑な接続を意識して活動に取り組む。	地域の施設や人材を活用した学習を全学年で行い、地域への愛着を育む活動に取り組む。また、近隣の幼稚園や保育園、中学校と連携し、学びの連続性や円滑な接続を意識して活動に取り組む。	4	具体的方策に教員の100%が取り組んだ。	3	実施状況について、90%の保護者・児童から肯定的な評価を得た。	<ul style="list-style-type: none"> 自治会、育成会の催しに大勢の子供たちが参加し、地域の人との交流が行えている。 子供たちは、保育園児と一緒に遊ぶことを楽しんでおり、よく声を掛けてくれる。 社会教育施設として学校との連携活動に貢献できる体制を整えていく 以前より地域との連携は継続して行われており、より地域に愛着がもてるような活動もあるとよい。子供の成長を良い目で見ることができてよい。 教員が取り組んでいない具体的な理由を明確にする必要がある。ダンディーkaiや育成のイベントは参加者が多く交流ができています。 	<ul style="list-style-type: none"> 近隣の保育園・幼稚園と行う、小学校1年生との学校探検や、中学校教員の派遣授業、育成会主催の小中交流会は、学びの連続性や進学への円滑な接続につながった。学年により、地域人材を活用した活動計画の有無があるため、人材活用だけに留めるのではなく、地域の産業や施設等の利用も、児童にとって、地域の教育的資源の活用になっていることを全教職員で共通理解する必要があった。
				1	2 具体的方策に教員の85%が取り組んだ。	1	実施状況について、75%の保護者・児童から肯定的な評価を得た。		
				1	具体的方策に教員の85%が取り組んだ。		実施状況について、肯定的な評価は75%未満だった。		

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。